



風車

ふうしゃ

電話リレーサービスと遠隔手話通訳の違いって？

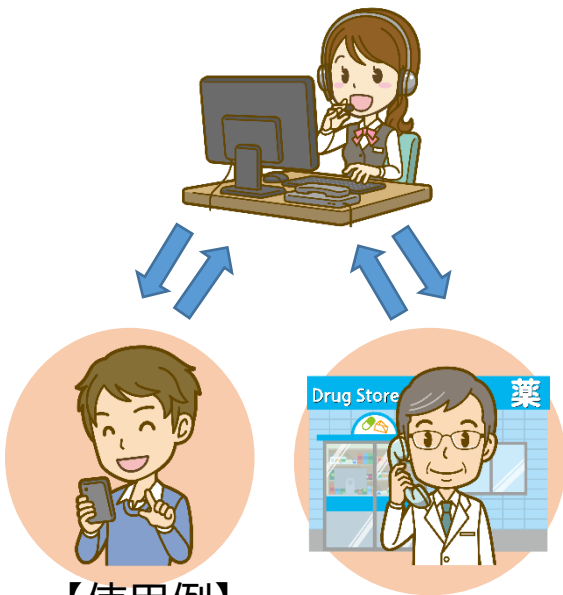
今年7月から「電話リレーサービス」が本格的にスタートしました。

利用者も増えていますが、「テレビ電話を使った手話通訳(情報保障)」ということで、電話リレーと昨年から長崎でもはじまった「遠隔手話通訳」の違いがよく分からない。という方も増えています。

そこで今回は電話リレーサービスと遠隔手話通訳の違いについてご紹介します。

電話リレーサービス

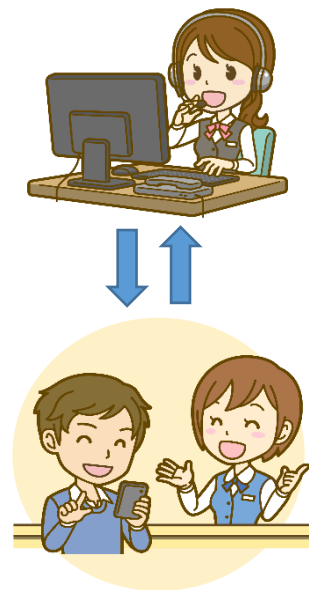
離れている聴覚障害者と聴者を
ビデオ通話でつなく
(健聴者からも電話をかけられます)



【使用例】
お店の予約や宅配便
の再配達など

遠隔手話通訳

その場で対面の相手と
ビデオ通話でつなく



【使用例】
銀行や行政の窓口
病院での診察など

話したい相手が目の前にいるか、または遠くにいるかが大きな違いとなります。
ほかにも登録方法、使い方の違いなどあります。

登録や使い方について、わからない、もっとよく知りたいと思われる方はぜひ当センターでも説明しますので、お気軽にお問い合わせください。

全国聴覚障害者情報提供施設協議会オンライン総会・大会に参加して

2021年度全国聴覚障害者情報提供施設協議会総会・大会が6月24日(木)リモートで開催されました。2020年度大会・総会は第6ブロック北九州市で開催される予定であったが、折からの新型コロナウイルス感染症拡大により中止になった。

今なお多くのイベント、大会、研修会などが軒並み中止や延期、極力最小人数での開催を余儀なくされている日々が続いている。2年ぶりとなる今回も集まったの施設総会・大会は叶わず zoom による開催となりました。

午前中の施設大会では、厚生労働省社会・援護局、障害保健部 企画課自立支援振興室 室長補佐 今井貴士氏による「聴覚障害者情報提供施設が今後担うべき役割、期待」と全日本ろうあ連盟情報・コミュニケーション委員会委員長中西久美子氏による「運動の方向性と聴覚障害者情報提供施設に対する期待」と題しての講演であった。なかでも聴覚障害者情報提供施設としての役割の一環として「ICT等の環境整備」であったが「対面手話通訳と遠隔手話通訳を適切に組み合わせた利用が重要であるとの考え方に変わりはない」との言葉に「だれ一人取り残さない社会の実現に向けて！」の意志が伝わりました。

「ICT 難民」を作らないためにも、職員とも協議し施設事業としてタブレット端末による、オンライン会議体験講座、ICTを活用したコミュニケーション講座の企画を検討したいと思います。



ライブラリーだより

『ドキュメンタリー ‘90 原爆は聞こえなかった』(VHS作品、時間 90 分)

全国手話通訳問題研究会 長崎支部が長年取り組んできた「ろうあ被爆者の皆さんへの聞き書き活動」の様子や、原爆手帳の存在を知らなかった聴覚障害者への申請を支援する様子をNHKで放送されました。

その内容は『第11回地方の時代賞コンクール(放送局部門)審査委員会推賞』を受賞しています。

当時の聴覚障害者への支援される姿を通し、学びを深めてみませんか？

※この作品は上映会等での上映ができない作品です。

視聴に関しては、お問い合わせください。



受賞の楯はセンターにあります

ビデオを観る会

8月7日(土)13:30～

映画「おかあさんの木」(115分)

❖出演者:鈴木京香/平岳大/田辺誠一 他

9月4日(土)13:30～

「ドラマスペシャル 古畑中学生」(96分)

❖出演者:田村正和/山田涼介/原田泰造 他

みみ倶楽部

7月は、マスクケースを作りました♪
参加された方から、一番の難題は「糸通し」
便利道具に感謝しながら仕上げを自慢し合いました。との感想もいただきました。

<次回の予定>

・8月21日(土) 10:00～12:00
平和学習～DVD上映「原爆63年目の真実」
(94分)～

・9月18日(土)野外交流会(計画中♪)
※参加の場合はお申込みをお願いします。